

I 重点的に取り組む主な項目の進捗状況

1 個別支援計画の充実

毎年度、各部門ともサービス管理責任者等を中心に上半期の個別支援計画の策定、モニタリング、下半期の個別支援計画の策定、モニタリングを繰り返し、個別支援計画が策定されますが、今年度は、改めて主任・グループリーダーを対象とした「個別支援計画の作成」研修を8月に実施し、9月（15名）、12月（12名）と3回にわたり基本的な考え方から具体的な作成方法などの研修を実施しました。

また、次年度に向けて、個別支援計画の様式を職員参加のもとに、変更しました。

2 職員研修の充実

今年度の法人内研修は、感染症対策、医療安全、摂食指導、腰痛対策、権利擁護、医薬品研修等を実施し、延べ626名が受講しました。また、新人職員、主任・グループリーダー、中堅職員研修を実施しました。

外部で実施された研修には、延べ61名が参加し、県外での学会・研修には延べ34名が参加しました。

3 権利擁護の推進

当法人の虐待防止マニュアルに基づき、権利擁護・虐待防止委員会を隔月に開催し、

定期的に各セクションにおける権利擁護に関連する状況を確認しました。

また、職場環境の振り返りとして年間2回、障害者虐待防止「職員セルフチェック」を

実施し、自分自身が利用者への対応、挨拶などしっかり実践されているかどうか、周りの

職員はどうかなどのチェックを行いました。

また、外部講師を招いて、「虐待（不適切な支援）について」と題した障害者虐待防

止・権利擁護研修を開催しました。

4 新規事業の取り組み

開成町に開設した地域支援センターひまわりでは、平成29年12月に受託した地域支援活動事業を、今年度も足柄上地区1市5町の委託を受け実施しています。

精神障害者、知的障害者など60名が登録しています。そのうち21名が児童となっています。平成30年度は、249日開所し、延べ1426名（内・児童360名）の利用がありました。一日平均5.7名となっています。

施設内の交流スペース開放によって、地区自治会、ひまわり訓練会OB会、開成町障害児者と家族の会、スポーツ少年団など約800名の利用がありました。

II 各部門別事業実施状況

法人事務等

1 評議員の状況（平成30年度末現在）

評議員の氏名	職業等	評議員選任・解任委員会決議年月日	任期
天野 隆博	太陽の門家族会 会長	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
杉山 輝雄	無職	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
武田 伸六	行政書士	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
柴田 和生	足柄療護園 事務局長	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
肥土 実	神奈川県重症心身障害児を守る会 副会長	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
堀内 勇	(福)福音寮 理事	H29.3.3	H29.4.1～H33.6
牧野 賢一	(特非)UCHI 理事長	H29.3.3	H29.4.1～H33.6

・年度中に退任した評議員（再任された者を除く） なし

2 理事の状況（平成30年度末現在）

理事の氏名	・理事の役職 ・常勤・非常勤の別 ・職業	評議員会 決議年月日	任期
内田 恵之	理事長 常勤 風祭の森 理事長	H29.6.16	H29.6.16～H31.6
大川 俊哉	理事 常勤 太陽の門 施設長	H29.6.16	H29.6.16～H31.6
伊藤 崇博	理事 非常勤 (福)常成福祉会 専務 理事	H29.6.16	H29.6.16～H31.6
飯田 美枝子	理事 非常勤 無職	H29.6.16	H29.6.16～H31.6
篠崎 登	理事 非常勤 (医)三成会 新百合ヶ 丘総合病院 乳腺・内 分泌外科部長	H29.6.16	H29.6.16～H31.6

小川 陽	(福)唐池学園 かみーナ貴志園 施設長	H30. 6. 20	H30. 6. 20～H31. 6
------	------------------------	------------	-------------------

- ・年度中に退任した理事（再任された者を除く） 長根 直幸
- ・退任年月日 平成 30 年 6 月 20 日

3 監事の状況（平成 30 年度末現在）

監事の氏名	職 業	評議員会 決議年月日	任 期
岡崎 良信	無職	H29. 6. 16	H29. 6. 16～H31. 6
山田 豊	税理士	H29. 6. 16	H29. 6. 16～H31. 6

- ・年度中に退任した監事（再任された者を除く） なし

4 評議員選任・解任委員会委員の状況（平成 30 年度末現在）

委員の氏名	職 業	理事会 決議年月日	任 期
渡辺 貞	無職	H29. 6. 16	H29. 6. 16～H31. 6
岡崎 良信	無職	H29. 6. 16	H29. 6. 16～H31. 6
鳥居 富郎	(福)風祭の森 職員	H29. 6. 16	H29. 6. 16～H31. 6

- ・年度中に退任した委員（再任された者を除く） なし

5 評議員会開催状況

第 62 回定時評議員会（6 月 20 日 7 名中 6 名出席）

- 議 題 1 平成 29 年度計算書類及び財産目録の承認について
2 理事 1 名の選任について
- 報告事項 ・平成 29 年度事業報告の内容報告について

第 63 回評議員会（11 月 30 日 7 名中 7 名出席）

- 議 題 1 平成 30 年度上半期決算報告案
2 社会福祉法人風祭の森定款の一部変更について
- 報告事項 ・平成 30 年度上半期事業報告の内容報告について

第 64 回評議員会（3 月 26 日 7 名中 7 名出席）

- 報告事項 ・平成 30 年度第一次補正予算
・平成 31 年度事業計画
・平成 31 年度予算
・神奈川県、保健福祉事務所の監査指導等の報告について

6 理事会開催状況

第 86 回理事会（5 月 31 日 6 名中 5 名出席）

- 議 題 1 社会福祉法人風祭の森非常勤職員就業規則の一部改正について
2 平成 29 年度事業報告案
3 平成 29 年度決算報告案
4 理事候補者の推薦について
5 定時評議員会の招集について

第 87 回理事会 (6 月 20 日 6 名中 6 名出席)

- 議 題 1 理事長の選定について

第 88 回理事会 (11 月 14 日 6 名中 6 名出席)

- 議 題 1 平成 30 年度上半期事業報告案
2 平成 30 年度上半期決算報告案
3 社会福祉法人風祭の森定款の一部変更について
4 社会福祉法人風祭の森非常勤職員・常勤職員就業規則の一部改正について
5 運営規程 (7 規程) の一部改正について
(1) 太陽の門重症心身障害児(者)施設 (指定療養介護事業) 運営規程
(2) 太陽の門重症心身障害児(者)施設 (医療型入所施設) 運営規程
(3) 太陽の門ショートステイ (指定短期入所事業) 運営規程
(4) 太陽の門デイサービスセンター (指定生活介護事業) 運営規程
(5) 太陽の門放課後等デイサービスセンター「きゃんぼす」運営規程
(6) 太陽の門ヘルパーステーション(指定同行援護事業)運営規程
(7) 太陽の門ヘルパーステーション(指定居宅介護事業、指定重度訪問介護事業)運営規程
6 評議員会の招集について

報告事項 ・ 理事長の職務執行状況報告について

第 89 回理事会 (3 月 6 日 6 名中 5 名出席)

- 議 題 1 平成 30 年度第一次補正予算案
2 平成 31 年度事業計画案
3 平成 31 年度予算案
4 運営規程 (2 規程) の一部改正について
(1) 太陽の門重症心身障害児(者)施設(医療型障害児入所施設)運営規程

(2)太陽の門放課後等デイサービスセンター「きゃんばす」
運営規程

5 評議員会の招集について

報告事項 ・神奈川県、保健福祉事務所の監査指導等の報告について

7 監事監査の状況

5月18日実施 指摘事項なし

11月1日実施 指摘事項なし

8 理事、監事、評議員の異動

退任 6月20日 長根 直幸（理事）

新任 6月20日 小川 陽（理事）

9 定款変更申請

・2月15日申請、5月14日認可

申請先：神奈川県

変更内容：事業内容で「地域活動支援センターの経営」を追加した。

10 法人登記変更申請

(1) 資産総額の変更登記 (6月22日)

11 医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査

平成30年12月10日実施（小田原保健福祉事務所）

文書指摘事項 ・看護師数について、法令で定められている員数を充足していませんので、改善してください。（標準員数17人、現員数15.6人）

改善報告 ・人材紹介会社を通じ12月に面接を実施し、2月1日に1名、4月1日に1名の採用が決定しています。今後も法令に定められている員数に不足を生じないように、看護師の員数確保に努めます。

12 神奈川県による法人指導監査

平成30年11月27日実施

文書指摘事項 ・寄附金明細書に記載された金額について、事業活動計算書の経常経費寄附金の金額と相違があったので、今後改善してください。

・国庫補助金等特別積立金明細書に記載された国庫補助金等特別積立金の金額が、貸借対照表に記載の金額と相違があったので、今後改善してください。

改善報告 ・平成30年度決算より附属証明書との照合を行い転記ミス

の無いよう改善します。

1.3 経理状況

経理規程に沿った健全な財務運営や会計処理に努め、毎月の経営状況及び予算執行状況から必要に応じ補正を行ないました。

また、平成30年度の経営状況では、事業活動計算書から前年との比較でサービス活動収入が1500万円ほどの増、支出が3200万円ほどの増となり、大きな要因として、収入面では、短期入所、デイサービスで利用実績が増えており、支出面では主に入所部門の看護師及び介護スタッフの不足分の補充がある程度できたことによる人件費の実績増となっております。それらにより、当期活動増減差額で、前年のプラス3490万円ほどに対し、当年はプラス2000万円ほどとなりました。

1.4 人事・労務

(1) 入・退職

入職者（22名）

診療課長1名、生活支援課長代理1名、医師1名、理学療法士1名、
看護師3名、介護士4名、支援補助員1名、相談2名、デイ介護士5名、
地域活動支援員2名、ランドリー作業員1名

退職者（19名）

医師1名、看護師2名、介護士2名、支援補助員2名、相談1名、デイ看護師1
名、
デイ介護士6名、拠点事業看護師2名、ランドリー作業員2名

(2) 職員配置状況（平成31年4月1日現在）

・施設部	常勤	51名	非常勤	15名	嘱託	1名	計	67名
・地域支援部	常勤	20名	非常勤	6名	嘱託・登録ヘルパー	7名	計	33名
・事務部	常勤	5名	非常勤	5名	嘱託	1名	計	11名
・合計	常勤	72名	非常勤	29名	嘱託等	8名	計	111名

(3) 職員求人状況等

- ・求人方法 法人ホームページ、ハローワーク登録、新聞折込広告掲載及びネット求人3回、人材紹介事業者7社等
- ・面接人数 看護師5名、介護士12名、作業療法士1名、支援補助員1名、ランドリー作業員2名、ドライバー2名

重症心身障害児(者)施設

1 利用者の在籍状況等について（平成31年4月1日現在）

- (1) 長期入所者 46名（準超重心9名、その他37名）
- (2) 中期入所者 在宅重心児者が1か月程度の範囲で利用
実人員9名 利用延べ日数777日（前年同月比86%）
- (3) 短期入所者 在宅重心児者が休養等様々な理由で利用
実人員28名 利用延べ日数606日（前年同月比129%）

※平成30年度「月別入退所利用者状況及びベッド稼働率」 別紙資料【表1～3】参照

2 利用者の健康管理について

(1) 健康診断など

日々の検温の他、排泄や食事量のチェックのほかに、定期的な血圧や体重の測定、血液・脳波・レントゲン検査を実施し、利用者の健康管理に努めています。

(2) 通院等

小田原市立病院（耳鼻科、循環器科、婦人科、内科）、山近病院（循環器科）、藤沢市民病院（眼科、循環器科）、戸沢皮膚科、静岡てんかんセンター等他院通院は延べ26名で、専門医療の受診を行っています。

歯科についても、小田原二次歯科で治療や検査で延べ22名が受診しました。なお、平成25年度より依頼している訪問歯科での検診や歯石除去を行い、延べ373名が受診しました。

3 インフルエンザ対策

- ・例年、利用者及び職員には予防接種を行い、特に12月から3月まではマスクの着用、緊急時以外の外出の制限、手洗い・うがいの徹底を呼びかけてきました。
- ・平成30年度は、2月に3名、3月に7名の発症がありました。そのため、発症者は個室管理等を行い、かかわる職員も最低人数になるよう接触者の制限を行いました。また、入所者、職員全員に予防内服を行いました。
- ・その他の予防対策として、面会の制限、利用者・職員ともにS側、N側の交流禁止、入浴順番の変更、他院受診の日程変更、手指消毒薬携行による一行為一手洗いの徹底などによる感染拡大の予防に努めました

4 利用者の生活支援について

(1) 支援体制

医師、生活支援員、看護師による日々の申し送りや連絡、必要に応じてリハビリスタッフや栄養士などを交えた検討を行い、福祉と医療が連携した総合的な支援を行っています。

利用者のグループをN側、S側の2グループ体制として、生活支援と看護スタッフを分けて、利用者支援の役割と責任を明確にした支援体制により、スタッフの動きが機能的にして、きめ細かな介護・看護体制を維持しています。

(2) 個別支援計画

重点項目である個別支援計画の充実にむけて、上半期においては職員研修を実施し、基本的な考え方から具体的な作成方法など再確認する機会を増やしました。

上半期においては様式等の修正はできなかったが、生活支援、看護、リハビリ、栄養の面からモニタリングを実施し、下半期年度における個別支援計画を立案し、本人・家族・後見人に対して個々に面談の場を設け、意見交換を実施して双方の合意を得た個別支援計画を立てました。

(3) 日中活動等

ア 日中活動（別紙資料【表4】参照）

入浴日（火・木・土）以外の午前と午後の時間に、個別や集団による活動を実施しました。

主な活動としては、手遊び、水遊び、歌遊び、光遊び、シーツブランコ、マッサージ（リラクゼーション・ストレッチ）、アロマテラピー、壁面やポスター作り、絵本、お洒落タイム、エプロンシアター、散歩など、スタッフが創意工夫をした活動に努めました。

また、好みが合う利用者同士のクラブ活動も行っており、陶芸・コーヒー、デザート、音楽などを楽しむ活動も行っています。普通食を召し上がっている方はお楽しみ昼食会として駅弁を購入し、普段と違った味わいを楽しみました。活動の際には、個々の利用者の笑顔の写真を撮り、スタッフのメッセージを添えて、家族や後見人にお渡ししています。

この他、ボランティアによる音楽や紙芝居、個別支援などを実施し、日々の生活に変化を与えるよう心がけました。

イ 行事等

毎月の誕生会、端午の節句、七夕祭り、アイスパーティー、などの行事を行い、季節感を味わっていただきました。

また、毎月「替り風呂」を行い、血行促進や美肌効果がある紅茶、コーヒー、バラ湯などを行いました。

ウ 外出（別紙資料【表5】参照）

利用者個々の目的に応じた外出も実施しました。

エ 家族室等を利用した小集団の活動(別紙資料【表6】参照)

食事や喫茶、光遊びやミニコンサートなどを3～4人の小集団でのお楽しみ会を実施しました。ご家族が参加される時もあり、アットホームな余暇活動を実施しました。

5 地域との交流

地元自治会が主催する盆踊りや箱根病院が実施した花火大会に参加した他、地元の神社の例大祭で神輿の巡航が2日間行われ、10月には恒例の当所「秋祭り」を開催し、地域の方々と利用者・職員の交流が行われました。

リハビリセンター

平成30年度は理学療法士3名、作業療法士1名(但し4月～2月まで産休及び育休)の体制で行いました。

理学療法士の場合は、新任職員にも入所及び外来利用者の引継ぎをスムーズに行うことが出来ました。また、介入頻度も外来は保てており、入所は増やすことが出来ました。

作業療法士は、3月から職場復帰となりましたが年度の多くの期間は外来・入所リハビリ共に休止となりました。

平成31年4月から新任作業療法士を確保することが出来たため、復帰後は新年度の準備期間としました。

部署内にてカンファレンスを月2～3回の頻度で定期的実施し、現在のリハビリ状況や今後の課題及び検討事項について相談し合える場を設け、リハビリ職員間の情報共有に努めました。

個別支援モニタリングの会議にも極力出席し、情報共有と個別支援計画への参加に努めました。また、リハビリ職員が不在の際などにも入所職員から相談や要望を収集しやすくするために「リハビリ連絡ノート」を施設部に継続して設置しています。月1回開催されている摂食指導講習会にはリハビリ職員も参加し、利用者の食事の状況把握・意見交換に努めました。

1 リハビリ外来

リハビリ外来利用者は、理学療法に80名(6歳未満7名・18歳未満35名・18歳以上38名)、作業療法に3名(6歳未満1名・18歳未満1名・18歳以上2名)が受診しています。新規受け入れは、理学療法8名でした。

前年度と比較すると、理学療法は3089単位から3658単位と18.4%増となり、作業療

法は 1629 単位から 8 単位と大幅な減となっています。

2 入所者へのリハビリ

前年同期と比較すると、理学療法は 1754 単位から 3137 単位と 78.8%増となりましたが、作業療法は 156 単位から 13 単位と大幅に減少となりました。

地域支援事業

<デイサービス>

1 利用者の状況（別紙資料【表 7】参照）

平成 30 年度末現在の利用契約者は、重症心身障害者 18 名、身体障害者 16 名、知的障害者 1 名の合計 35 名となっています。

年間、251 日開所し、延べ 3671 名が利用しました。1 日平均 14.6 名となっています。前年度は 253 日開所し、延べ 3582 名利用、1 日平均 14.2 名でした。

2 日中活動の状況（別紙資料【表 8】参照）

昨年度までも実施していた園芸、陶芸、スポーツ、制作、光遊びの 5 つの活動に加え、活動内容を利用者間で話し合っ実施するリクエスト活動を 11 月より開始し、カラオケやキーホルダー作りといった利用者が興味を持っている活動を日替わりで実施しました。

また、養護学校の夏休みなどの長期休業期間や季節行事週間に放課後等デイサービス「きゃんばす」や地域活動センターとの交流を図り、かき氷、ハロウィン、クリスマスの各行事で一緒に活動をしました。

<ヘルパー事業>

1 利用者の状況（別紙資料【表 9～11】参照）

平成 30 年度末現在の利用契約者は、障害児者 53 名（うち 5 名が新規契約者）にサービスを提供しました。（内訳：肢体不自由児 2 名、身体障害者 17 名、重心児 8 名、重心者 13 名、知的障害児 2 名、知的障害者 8 名、視覚障害者 2 名、精神障害者 1 名）

居宅介護、移動支援、同行援護、日中一時、福祉有償運送のサービスを提供しましたが、この中では特に居宅介護の提供時間が 1716.5 時間が 1302.5 時間と 414 時間減少しました。その理由は、県外への転居や 4 名の方の長期入院と思われます。

2 「あんしんヘルパーネット」

県西圏域の各市町で支援の中核を担う居宅介護事業者メンバーで構成した「あんしん

ヘルパーネット」を県西地域拠点事業内に設置し、あんしんヘルパーネット会議を開催しました。

＊9月28日 あんしんヘルパーネット会議開催 参加者 18名

県西圏域における訪問居宅介護事業所のサービス提供の実態を把握し、地域の課題の整理・解消及び地域支援の充実を図れるよう、アンケートの調査をおこなった。そのアンケートを基に課題の共有や自分たちに出来る事の話し合いを行いました。

<相談室>

1 障害児者の障害福祉サービスの計画相談支援（別紙資料【表12】参照）

計画相談支援事業は、平成30年度末現在128名（内訳：在宅73名・入所55名）と契約しています

計画相談支援88件、モニタリング209件、併せて29件行いました。

計画相談支援・モニタリングの実施にともない、利用者の状況把握や必要な支援の提案、見直しを行い、利用者が安定して在宅生活を継続できるよう支援しています。また支援者側とは利用者に関する情報共有・意見交換を行うことで更なる連携を図れるよう取り組みました。

2 出張相談の協力（綾瀬市より受託）

平成27年4月から、綾瀬市の在宅福祉相談室の出張相談において、計画相談におけるセルフプランの補助、また在宅の身体障害者の医療、福祉サービス等の調整、福祉用具・住宅整備等の支援など、福祉に関するあらゆる諸問題について対応してきましたが、この出張相談は今年度末で終了となりました。

<放課後等デイサービス「きゃんばす」>

1 利用者の状況について（別紙資料【表13】参照）

平成30年度末現在の利用契約者は、小田原市14名・南足柄市3名・箱根町1名・大井町1名合計19名となっています。（対象は重症心身障害児）

年間、250日開所し、延べ1181名が利用しました。1日平均4.7名となっています。

2 日中活動の状況（別紙資料【表14】参照）

利用者の発達段階、障害特性に応じ、ご本人が主体的に参加できるように道具の工夫や環境配慮をおこない、意思を大切にしながら個別活動、集団活動をおこないました。

また、「交流」を年度の活動のテーマとし、利用者がより多くの人と関わることで自己表現や社会性を育めるような活動プログラムを実施しました。

- ・成人デイサービス…かき氷週間・スイカ割り・秋祭り展示品合同制作・ハロウィン
- ・生活支援課…料理活動
- ・日清医療食品…夏休みリクエストメニュー

夏休み等の学校の長期休業日や季節行事等の際は各利用者のご家族をお誘いし、活動に参加していただきました。

<地域活動支援センター事業>

1 利用者の状況（別紙資料【表 15～16】参照）

平成 29 年 12 月から事業を開始し、平成 29 年度末現在の登録者数は、南足柄市 9 名・開成町 4 名・大井町 2 名・山北町 2 名計 17 名となっていました。平成 30 年度末現在では、南足柄市 24 名・開成町 17 名・大井町 7 名・山北町 4 名・中井町 7 名・松田町 1 名合計 60 名となっています。その内訳は、児童 21 名・身体障害者 2 名・精神障害者 29 名・知的障害者 8 名となっています。

2 事業実施時間と利用状況（別紙資料【表 17】参照）

児童は、水曜日・木曜日の 10 時から 13 時、成人は、月曜日・火曜日・金曜日は 10 時から 16 時、木曜日は 14 時から 19 時までとなっています。

平成 30 年度は、249 日開所し、延べ 1426 名（内・児童 360 名）の利用がありました。一日平均 5.7 名となっています。

3 日中活動（別紙資料【表 18～19】参照）

生活リズムを整える外出機会、ピアサポートの場、福祉サービス等に関する情報収集の機会等のニーズに対応して、創作活動、パソコン講座、書道、運動プログラム等を実施しました。児童は、絵の具遊び、小麦粉粘土づくり、サーキット遊びなどをしました。

栄 養 管 理

1 給食管理業務

- (1) 月 1 回の行事食・お誕生日ケーキでは毎月のテーマに沿った内容を検討し、イベント性のあるメニューを考案しました。
- (2) 1 ヶ月ごとのサイクルメニューは毎月見直しを行い、給与栄養量の評価と喫食者の意見を反映し、積極的に新しいメニューを取り入れ、内容の充実化を図りました。
- (3) 季節ごとに旬の食材を取り入れ、季節の感じられる食事提供に努めました。
- (4) 毎月、アンケートへの記載内容について給食委員会で公表し、意見や要望については委員会メンバーや委託給食会社と対策を検討しました。
- (5) 医師・管理栄養士の検食簿の記録も反映し、見直しが必要な献立や調理

方 法等については検討を行いました。

- (6) 新たな試みとして、「選択メニュー」について他部署および委託給食会社と協議し、次年度より月1回程度の頻度で利用者が選択した主菜を提供できるよう、実現に向けて検討を進めました。

2 栄養管理業務

- (1) 定期的な病棟訪問や他職種との連携により、適切な栄養評価および管理を行い、利用者の入院時食事療養の推進に努めました。
- (2) 入居者の栄養ケア計画書を作成し、個別支援面談においてご家族へ栄養管理計画の説明をしました。(3月)
- (3) 入居者の栄養スクリーニングと栄養管理計画書を毎月見直し、作成しました。
- (4) 栄養や食形態などについて、他職種と適宜カンファレンス・打ち合せ等を行い、入居者個人の健康状態や嚥下機能に応じた食事を検討しました。
- (5) 上半期に検討を始めた、利用者のソフト食・ペースト食の量と栄養価の調整について、無理のない量で十分に栄養摂取できる食事となるよう、試作を経て利用者への提供を開始しました。

3 施設設備・衛生管理業務

- (1) 委託給食会社による給食提供に対し、安全・衛生についての管理・指導を行いました。
- (2) 厨房設備については必要に応じて点検や修理の手配を行い、適切な管理に努めました。
- (3) 定例の厨房内環境調査により、厨房の衛生状態について検査をしました(6月)

4 その他

- (1) 委託給食会社との契約が本年度をもって満期となったため、次期の業者選定を行い、決定後に業務委託契約の締結を行いました。
- (2) 約束食事箋の内容について見直しを行い、平成30年度版を作成しました。
- (3) ヴィエントギャラリーで、給食部門の担当月に掲示物を作成し、行事食等の紹介を行いました。(6月:「前年度のイベント食と委託給食業者スタッフの紹介」)
- (4) 日本重症心身障害学会へ参加をし、参加団体による研究発表や事例発表などから、当施設の栄養管理に活かせる新たな知識や情報を得ました。

1 医薬品の適正管理及び安全管理

- (1) 薬事委員会を開催し、採用医薬品の検討や更新、重症化・複雑化による急変に対応出来る医薬品、災害対策医薬品を検討し、備蓄量、品目を調整いたしました。
- (2) 医薬品等の使用期限の調査を実施いたしました。(実施月：7月)
- (3) 医薬品の在庫量を把握し、過剰在庫をなくすために年2回棚卸しを行いました。
- (4) 同成分で品質も担保でき、また服用しやすい剤型である後発品を選定し、採用することにより服薬コンプライアンスの向上、医薬品費の削減に努めました。
- (5) 誤薬防止のため、入居者個々に服薬カードを作成し、看護師、支援スタッフに周知徹底いたしました。
- (6) 「医薬品の安全管理のための業務手順書」を現状にあった形に改訂いたしました。
- (7) 医薬品安全管理について、全職員を対象に研修会を行い、医薬品とその安全管理についての知識を得てもらうよう努めました。(平成31年2月20日開催)

2 他職種との連携

- (1) 服薬状況について、医師、看護師、支援スタッフ、管理栄養士からも情報を収集し、利用者にとって最善の薬物投与が行われるように努めました。

3 短期・中期利用者の持参薬の適正対応について

- (1) 短期・中期利用者の入所時の面談に立ち会い、看護課と連携して持参薬の管理を行いました。
- (2) 短期・中期利用者ご家族に対し、薬剤情報、保管管理、服薬方法などの指導を行いました。
- (3) 持参薬について、調剤方法の要望や不明点の確認を薬局へ問い合わせることにより、地域連携に貢献いたしました。

4 専門職としての知識の向上および他施設との連携。

- (1) 薬剤師会、製薬会社等が開催する勉強会に出席し、薬学や医療に関する知識を習得しました。
- (2) 重心児・者に関わる薬剤師の講習会に参加し、重心施設に特徴的な医薬品の使用法や服用方法について、他施設の薬剤師と情報交換しました。
- (3) 全国重症心身障害児者施設職員研修会《医療技術管理コース》の薬剤師分科会において、当施設での服薬に関する取り組みについて口頭発表いたしました。(演題：「支援スタッフのための薬の確認方法」)